

障害者の生涯学習支援ハンドブック（事例集）の検討について

・タイトル：

障害者の生涯学習支援ハンドブック～事例に学ぶ実践のポイント～（仮）

★これまでの議論のポイント

- ①デザイン等も重視したほうが良い
- ②チェックリストやポイントを前半に持ってきたほうが、読み手にとっても良いのでは
- ③読み手を意識した事例順にした方がよい（公民館事例を先に）
- ④実践の”場所”ごとの事例ではなく、中身を重視したものになると良い
- ⑤事業を行う際のコツやポイントなども掲載できると良い
- ⑥事例執筆は分担して行い、視察等も含め、自分以外の人の視点も取り入れながら進めていく
- ⑦チェックリストの難易度は低くし、実際に使えるものにしたほうが良い

・ページ構成

合計 32 頁程度

※構成案は別紙の通り

・掲載事例について

- (1) 「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業の委託団体の研究成果を活用した事例
- (2) その他、委員推薦の事例等

※今回（第一弾）は、読み手のターゲットを地方公共団体関係者（社会教育・生涯学習、特別支援教育、障害福祉関係者）とし、事例は知的（発達）障害の実践に絞る。第二弾では、ターゲットを広げ（大学関係者や障害福祉関係者等）、障害種を幅広く取り上げる。

ハンドブック（事例集）構成案（2021年7月事務局改）

小見出し／ キーワード	頁 数	具体的内容／事例	担当
表1・2+P1 目次・趣旨	3	趣旨や地方公共団体職員向けのメッセージ （主に社会教育・生涯学習、障害者福祉担当）	事務局
入門・予備知識	2	いまさら聞けない「障害者」「合理的配慮」 「障害の社会モデル」とは	津田
歴史・政策の背景	2	なぜいま「障害者の生涯学習」なのか、障害者青年学級のあゆみ、移行期と各ライフステージ	津田
一緒に楽しみ共に悩む共生を目指す学び、オープン・クローズ	2	クローズな学び、地域に交流拠点を拓くオープンな居場所・喫茶コーナーの成り立ちと現在 （国立市公民館のコーヒーハウス・40周年）	青山
知的障害者が大学で学ぶ／インクルーシブな授業	2	知的障害者を包摂する大学履修証明プログラム、地方公共団体との連携、コーディネーター・メンターの役割（神戸大学 KUPI）	津田
社会への移行期に当事者中心の学び直し	4	当事者中心の学びを支える保護者や教員 OBOG コーディネーターの多様性 （NPO 法人障がい児・者の学びを保障する会）	大森 （青山）
障害者本人と一緒に場をつくる	2	障害者の参画（公運審、図書館協議会、自立支援協議会など）	青山
共生をめざす学校と地域の協働	2	学校と地域が連携した実践事例 （特別支援学校等のコミュニティスクール）	志々田
ボランティア育成、共生社会をつくる福祉教育の展開	2	（社会福祉協議会や特別支援学校公開講座の取組）	梶野
多職種がつながり支える学び	2	多様な人が連携してつくる学びの場・自立支援協議会の取組（NPO 法人 PandA-J）	平井
当事者団体・アート（音楽）の学び	2	福岡市手をつなぐ育成会保護者会	事務局
障害者の学びの場づくりQ&A	2	障害者の生涯学習のコーディネーターに聞く！	事務局
まとめ	2	新たに学びの場をつくり出すために 障害者の学びの場づくりチェックリスト	志々田
P1+表3・4	3	執筆者一覧（プロフィール）、問い合わせ一覧	事務局

※各ページに「社会教育主事のコメント or 元特別支援学校教員のコメント」を掲載
（担当：梶野、平井）